



松田美恵さんの絵

第377回例会 1966.11.8 (火) 晴

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや (2) 0707・2838番
 事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (2) 5775番

ABETTER WORLD
 THROUGH ROTARY
 (ロータリーでより良き世界を)

出席報告

本日の出席 会員数 58名
 出席数 40名
 出席率 68.97%
 前回の出席 前回出席率 84.48%
 修正出席数 53名
 確定出席率 91.38%
 欠席者 阿部(公)君、荒明君、谷口君、千葉君、
 長谷川君、早坂君、鷺田君、林君、石黒
 君、金井君、森田君、中山君、大野君、
 斎藤(信)君、佐藤(伊)君、佐藤(仁)君、
 菅原君、佐藤(忠)君

メソッド

金井君、三井(徹)君、中台君、手塚君
 鶴岡西RC

ピシター

伊藤博司君 鶴岡西RC
 長谷川知男君、佐藤吉三君、
 万谷伊右工門君、斎藤一郎君 酒田RC

ソング

それでこそロータリー
 リーダー 三井(健)君

司会

会長代理 張 紹淵 君

会長欠席の為、張紹淵君が司会をつとめた。
 会長代理よりクラブの釣大会の事について報告があつた。

卓話

埋れた文化財について

会員 池内方平

(前号に続く)

○忠広歿後のこと

(イ) 家財の仕末

幕府では忠広歿後、検使多賀外記をして家財をことごとく没収せしめた。其の後遺臣加藤主水、杉村文太夫兩人に酒井家の山本助右工門が同行してこれを幕府に納めた。阿部豊後守忠秋が受取った。その目録の控えが現存しているが昔が昔だけになかなか堂々たるものである。とてもここには書きつくせぬが刀だけでも次の通りである。

- | | |
|----------|------|
| 1. 正宗小脇差 | 1 腰 |
| 1. 行光 | 小刀信国 |
| 1. 左文字 | 無銘 |
| 1. 則光 | 金道 |
| 1. 則重 | 信濃 |
| 1. 広光 | 政平 |
| 1. 和光 | 兼舎 |

その他 37

前記目録の行光の小脇差と延寿の刀の傍に「此行光(延寿)死骸桶に入申候得共取出し差上申候」と但書がついている。忠広と共に棺に入れたのを幕府の検使の命により取出し納めたものと解される。名刀に対する執着か、罪人に対する戒めの為か不明である。

○宝劔の由来…… 慶長16年春、前將軍家康が駿府から上洛して京の二条城に秀頼を招いた。此の時秀頼に付添った清正は「若し幼主の身に異変あるときは家康を斬ろう」と悲壮な決意から鉄扇に擬した短劔を懐ろに

秘めて城内に入った。幸い家康と秀頼の会見は無事に済んで退城するを得た。清正是懐劔を押戴き『故太閤の恩にやっと報いることが出来た』と感泣した。

という件りで先年吉右衛門が『二城条の清正』という芸題で歌舞伎座に上演し大当りを取った有名な史実この宝劔は忠広歿後庄内にとどまり酒井家に仕えた遺臣達が1年交代で保管し明治に至ったものだそうです。

加藤主水と谷崎妥女の両家は早く断絶したので主として杉村文太夫加藤(頼母)菅野正右工門、永原の久左工門の4家が当たった。明治になってからは杉村、永原両家が庄内を離れたので加藤、菅野の両家で保管、後一時鶴岡市の富豪風間家に預けた。その文書が杉村家に現存している。

ロータリーと云う社会

(ロータリーの友10月号より抜萃)

「ロータリーもよいけれど出席がやかましいのでねー」と云って尻込みする人が多い。それでも勧められる儘に、或は職責上から入会する、始めの間は型の如き出席で欠席も時々あるが、2年3年とする内、段々に何となく引き付けられ、例会日に出席しないと物足りなさを感じずる様になる。これが誰にも普通の成り行きの様である。お父さんがその様な気持になると、家庭でも応援が始まり、「今日はロータリーですよ、ネクタイをちゃんと着けて出なさい」と云う様な事になる。

クラブそのものも同じく、発足当時は会員の出席は思わしくなく、クラブ出席率はずっと下の方であるが、それも多くは3年目位からよくなって行く様である。会員が揃ってロータリーに取付かれ、気持が合ってくるからである。

ロータリーとは此の様に、一種の魅力に取付かれた一つの不思議な社会である。ロータリーに加って居る様な指導的な立場にある職業人や専門職の人々は、昼夜の別なく立仗して居る。その多くは、自分の職場内での自分の職業についての人間関係とか、対外的な矢張り自分の職業についての人間関係とかに疲れ果てて居ると云ってよい処がロータリーと云う社会は一業一人が原則であるから、自分と同じ職業の人が居ないのが普通である。

もう一つは集まる目的が自分の職業に関してでは全くない。そこでこの人々にとってはロータリーは全くの別世界である。これが魅力である。一週間、朝から晩まで常に頭を悩ませる世界とは全然異質の社会である。僅か一週間に一時間だけではあるが、丁度サバクの中のオアシスの様に別天地であり、心の解放、救いとなるのである。これが魅力の根源であると思う。

誰でも商売となると時と場合により心にもない嘘も云

わねばならん事がある。虚勢を張らねばならん事もある。

強者におもねることが必要な時もある。商売として自分を抑えて之等の事をせねばならんのが、1週間7日の生活である。その間に短いけれどロータリーの時間では打って代って、その様な煩らいなどケロリと忘れ、友愛を楽しむことが出来る。

これがロータリーと云う社会の持つ魅力である。半年に1度、2、3日職場から帰休する兵隊の心理と云えば大げさだが、それに似たものである。さらに云うなら、吾等の職業の社会には階級がある。階級による緊張や又軽い不満などもある。

然しロータリーの社会にはこれがない。日本でも敬称を止めて「君」を用い、何々会員と云う民主的な呼称を使う、米国では全部ニックネームで呼ぶのを原則として居る。取扱いについても差別のないのは勿論で、事業場へ帰れば絶対にしない様な刀筆の事務を大会社の役員達が、ロータリーの奉仕委員なるが故に喜んでやって居られるほほえましい情景は、ロータリー社会の特質の一つである。

連絡事項

◆ 幹事報告

例会変更 11月18日 東京西RC
第358地区年次大会日にあたる。
会報到着 米沢RC
世界身体障害芸術家協会より案内

◆ 親睦委員会

委員長より今年度のクリスマス家族会開催についての要領について話があった。

スマイル

クラブ釣大会に於いて第1位 嶺岸君
創業20周年を迎えて 五十嵐(一)君
早退 五十嵐(三)君

献立

さしみ一平目
焼物一鮭、おろし
味噌汁一ほうれん草